J.C.O.S.M.

Vol. 6 No. 1 (Jan. 1976)

全科協ニュース

1976年1月1日発行
(通巻第27号)

全国科学博物館協議会
東京都台東区上野公園
国立科学博物館内
〒110
TEL.822-0111(大代)

おもな内容：◇1976年を迎えて　◇特別展報告　山口県立博物館　陶山義仁　◇会員館園の紹介　鳥羽水族館

1976年にあたって

まず年頭に全科協会員館園の皆さんの御健勝と御多幸を祈ります.

今年は3月下旬にユネスコ主催でアジア博物館会議(Seminar on the adaptation of Museums to the needs of the modern world in Asia)が東京と京都で開かれます.

これは1973年に東京で開催されたアジア博物館近代化会議に引き続いて行われるもので. 今回はアジア地域の22ケ国から博物館代表者が参加を予想されています.

この会議の主要な議題は(1)国民的自覚を発揚する上での博物館の役割, (2)国家発展計画における博物館の位置, (3)博物館と学際性の概念, (4)博物館事業のための研修, (5)博物館と視聴覚技術, (6)博物館の館外活動, (7)博物館と青少年, (8)博物館の教育的機能等であるが, このなかでとくに日本側は博物館の研修問題を重視して会議に臨みたいと考えている. 研修の問題は1937年のアジア博物館近代化会議においても重要な問題として取り上げられ, 国際協力によって中堅職員の研修コースを作るところまで話が進んでいたのである.

現在のアジア各国の博物館を充実発展させるためにも, またこれから設立される博物館のためにも博物館の仕事に携わる者のすべてのレベルにおいて専門的研修が必要であって, アジア地域諸国の文化政策の一環として実現が望まれるのである.

われわれ博物館人は常に国際的に情報の交換, 人物交流, 技術の公開を欲しているが, 現状は国際的にはICOMがその役割をもっているが十分満足すべき状態ではない.

私は今回の会議で国際的研修機関の設置と博物館のためのモービル, チームの派遣をユネスコに強く要望したいと考えている. このような研修機関の運営を通じて, アジア地域博物館が要望しているアジア的特色をもつユニィクな博物館学を確立することも夢ではないだろうと思う.

こうした研修コースの設定に当って参考になるものは, 全科協の協力で実施してきた科学系学芸員講習であると思う. これからも一層内容の充実改善を図って悔いのないものにする必要があるので. 今後も皆さんの一層の御協力を期待します.

全国科学博物館協議会理事長

楠田 繁

1976年を迎えて

熱川バナナワニ園長　木村　亘

昭和51年の新春を迎え本年は特に比較的今まで日本に導入されていない南アフリカ, 並にニューギニア等の植物の導入に力を入れたいと思います. 植物園は何と言っても数多くの生植物を収集し其の園の特徴を持つことが大切で, ややもすると熱帯植物園はどこを見ても同じ植物展示になりやすいのが現況で, 本年は特に余り手をつけていない熱帯地方の珍らしい植物に重点をおき力を入れたいと念願しています. それには輸入植物の栽培技術の向上に努めなければなりませんので, 園にあっては此等の植生を研究室を主体に調査させ技術者の栽培技術の向上と教育に力を入れる覚悟です. 皆様の御協力と御指導をお願いし年頭の辞と致します.

1976年を迎えて

伊良湖自然科学博物館長　**伊藤　務**

本年の重点事業を次のように計画しております.

(1)　「渥美の貝塚・古墳展」　7月1日～8月31日

渥美半島にある吉胡，伊川津，保美貝塚などからの出土品を通して，渥美の歩みを学び，生きたふる里の財産として死物化することなく活用，保護をすすめる.

(2)　自然観察会，諸教室

新たに「キノコ狩り教室」などを加へ，楽しいものにしようと考えております.

愛媛亜熱帯植物園長　**窪田義直**

私の50年度の計画は椰子の新品種をより以上収集する事が目的でしたが，仕事のなかばで病に倒れ，十分に目的を達する事ができませんでしたが，本年は平地のヤシ園を盛土し，山谷を作り園を整備拡張し椰子の間に四季それぞれに咲く花木を植付け，来客の目を楽しませてあげたいと考えております．今後共によろしくお願い致します.

NHK放送博物館長　**太斎嘉行**

当NHK放送博物館は3月3日で開館20周年を迎えることになりました．これを記念して3月3日から31日まで特別展を開催すべく目下準備に追われています．社会情勢の酷しい昨今皆様方におかれてもご苦労の多い年かと存じます．お互協力しあって社会教育の振興にいささかなりとも寄与したいものと存じております．よろしくご指導の程.

香川県自然科学館長　**高橋正彦**

年間を通じて，県内中学2年生が3泊4日で実施する五色台教育における学習体験のうち，基本的科学の方法（自然・人文）の体得と人工と調和した環境保全意識の昂揚をめざして，野外学習の整備・充実をはかりたい.

小学生や一般来館者の科学意識の向上と創造力の開発及び自然に親しむ心のかん養をはかる展示を工夫する.

よい子の科学広場等を整備して，自然保育に参加する幼稚園児たちを，自然の中でのびのびと楽しませたい.

神奈川県立青少年センター館長　**大胡満寿男**

昭和47年から行ってきた展示場改造事業は，年々財政危機が進行する中で影響をうけながらも，一応完了ということになった．昭和51年度の見通しもさらに厳しいものがあるが，今までに蓄積したものを大切にしながら耐乏生活に臨みたい．こういう時期を乗り越えてゆくため，全科協を通じて情報交換を一層密にしていただければ幸いです.

神奈川県立博物館長　**高橋繁蔵**

本年は，開館以来10年目を迎えますので，準備委員会をつくり，さまざまな事業の展開を考えて参りました．しかし，県の財政事情は，昨年に引続いてきびしく，さらに諸事業の削減を強いられております.

展示の充実は，館の使命でありますので，これをのりきるために，①特別展の精選　②館有資料の活用　③館職員の創意工夫による展示効果の高揚を期待しております．全科協の皆様方のご支援をお願い申しあげます.

川崎市青少年科学館長　**川辺　稔**

昨今の地方自治体の財政事情の悪化は，各種事業の拡充について相当制約せざるをえない状況になりそうである．当館はプラネタリウム主体の施設であるが，この運営には従来どおり投影内容等に創意をこらし実施していきたい.

また，主として小・中学生を対象に実施してきた工作教室，講習会そして，天文，生物クラブの育成等，特別に予算化されていない自主事業を引きつづき行い，一層工夫をこらし内容の充実強化と更に改善，拡充を図りたいと考えている.

神戸国際港湾博物館長　**西川光一**

余暇時代の到来とうらはらに，不況が深刻になってきて，ここ数年来，入場者数の減少の傾向はこの時勢を反映してか，昨年ごろから一層強まってきたようです.

本年は特に市内の小中学生や手近かなところで余暇を利用しようとする人たちのために適当な余暇活用の場を提供するよう重点的に工夫を加えるなど，地道な活動をつづけていきたいと思っています.

交通博物館館長　**古谷善亮**

最近又は設立後年数を経ない科学博物館ついて驚きに近い感銘に打たれるのは，最近の科学の進歩がいかに凄まじいかという認識を深めることと，その為の教育施設の偉大さを思わせることである．もはや教育の補助施設という観念よりも，専門教育機関という感が深い．このように新しい技術を導入した科学博物館の活動を通じて，科学教育の近代化が広く行われることを期待して已まない.

1976年を迎えて

気にはなるが仲々に手が出ない．特別展のテーマに取り上げて，四つに組んだらある程度の調査も研究も進展するだろうと，今一年の計を練っている．

船の科学館理事長　**山下正雄**

昭和50年もあわただしくすぎ去り新年を迎えた．いま博物館界として真剣に取り組まねばならないものは何であろうか．社会情勢の変化に伴ない我々のものに対する考え方が基本的にゆすぶられている．今迄よいとされていたことに深い反省が求められる．博物館事業も例外ではない．夫々の博物館は己れが社会に於て占める意義を改めて確かめ，現状を虚心に省みてその機能を発揮するための手段，方法を研究し実現をはかるべきであろう．新しい年を努力と希望の年にあらしめたい．

山形県立博物館長　**佐藤信一**

地方財政窮迫のなかで，ようやく自然学習園の土地を購入し，環境博物館としての一端を整えることができたが，展示替計画の方は，基本設計を完了し，いよいよ実施という段階で，80パーセントの予算編成ということで，新年度は，実施設計だけということになりそう．時間をかけて納得のいく展開を考えていくしかない．

予算のない時には，館員の総力をあげて県民に奉仕する以外にない．そのため，講座3本，研究会2本を増やし，館内保存資料の再編成による催しもの展を意欲的に実施していく．

労働省産業安全研究所（産業安全技術館）
所長　**秋山英司**

社会福祉のみならず社会教育施設の運営にも．そのきびしさを感じさせられる昭和51年にあたり．当館の重点事業としては常に新しい情報伝達をはかる為の常設展示更新のほか，特別展としては，大型化した機械装置による災害の防止追求を，次にきびしい情勢をのり切るためには，従来の資材節約や再利用にとどまらず，展示の目的と収め得る効果の徹底的なチェックにもとづく簡素な展示技術やデザインの採用は勿論．同じ効果を得られるならばこれ迄の展示構成の常識にとらわれず思い切った媒体変換の可能性をさぐりたいと考えています．

和鋼記念館館長　**住田　勇**

この頃は一寸した日本刀のブームである．各刀匠は古作の名刀を目標に日夜努力している．

しかし，古刀を復元する技は容易ではないと言う．曰く地鉄(がね)，曰く鍛刀術の何れもが十分解明されていない．

当館は日本刀に関連する古文献をもち．また古代製鉄「たたら」の展示を行っている手前．少くとも地金の謎について明らかにすることを本年の抱負として努力する覚悟である．

特別展「山口県の自然史」を終えて

山口県立山口博物館　**陶山義仁**

昨秋10月1日から11月9日までの40日間，当館で開催した本特別展は，予想を上廻る観覧者数を動員し，大きな反響をよんで無事終了することができたので，ここにその概略を報告する．

経緯　本展は，当館が昭和42年に改築されてから隔年ごとに実施している特別展シリーズの第5弾として企画したもので，前回の「雪舟展」が美術部門であったので，このたびは自然科学部門のものをということで2年がかりで準備してきたものである．

地方の総合博物館の特色を十分発揮した内容のものを組んでみようという計画でスタートしたが，折悪しくオイルショックと引続いての不況による県財政の逼迫というアクシデントもあり，一時はその開催も危ぶまれたが，とにかく切りつめられた予算で実施することとなり，当初の計画とはかなり縮少されることになったのは残念であったが，かえって厳選された資料で充実したものとすることができたように思われる．

目的　本展の意図した最大の目的は，最近の自然の荒廃には目に余るものがあり，乱伐・乱掘・乱獲等の乱開発による自然破壊や汚染その他公害による環境破壊は，生物はおろか人類の生存すらおびやかすまでに至っている現状で，この時に当って博物館という立場から如何に対処すべきかということで，結局この特別展では，ふるさと山口県の美しい山河や生物がたどってきた数十億年にわたる歴史からときおこし，一度破壊されたら再び復元し得ないかけがえのない自然の真実の姿を県民に理解して貰って，その上に立って本当の地についた自然愛護の運動を推進してもらおうということを基本理念として全体構想を編成したものである．

合わせて，地質県山口から明治以来現在までに産した

1976年を迎えて

佐賀県立博物館長　**大園　弘**

昨年は国立科学博物館のご協力により「化石と進化展」を開催し，県内小・中・高等学校から好評をえ，学校と博物館との距離を非常に近くすることができた．このような規模の大きい展観は毎年というわけにはいかないが，天体と宇宙，科学の歴史などをテーマにした展示を計画するよう研究を重ねたい．

この間，瀬戸内海に火球の落下があったが，以前に佐賀県に落下した小城隕石，福富隕石，神崎隕石を追求し，県下の隕石について集成したい．

神宮徴古館農業館長　**宇仁一彦**

(1) 農業館の陳列資料の一部が老朽化しているので更新出来るものはこれを行いたい．

(2) 農機具の整理は昨年の目標の一つであったが，本年も尚これに当る予定である．

逓信博物館長　**板倉豊文美**

(1) 創意に満ちた展示活動

わかりやすく，興味深い常設展示，楽しく学べる特別展の開催等，博物館活動と学校教育との連けいを深めるために，内容を充実し魅力ある博物館活動を展開する．

(2) 観客誘致施策の推進とサービスの充実

より親しまれる博物館を目指して，家庭とのつながりを深めるための催物を開催．また学校，社会教育団体など団体誘致訪問の強化推進をはかる．

天文博物館五島プラネタリウム館長　**鏑木政岐**

当館も高物価の趨勢に煽られて，止むを得ず昨年9月から入館料の改正を行いました．入館人員が減少するのではないかと多少心配して居りましたが，幸い今の処，前年より稍増加して居ります．尚本年度展示計画の一つとして，投影効果を更に向上するため，目下スカイライン，プロジェクターを計画，発注致しました．多分3月中には完成すると思いますので，完成後，是非ご一見を賜りご批判を仰ぎたいと思う次第であります．

東京都児童会館長　**熊澤繁樹**

本年は．児童にとって魅力ある児童会館及びセンター的機能の強化を一層はかりたいと思います．

1. 地域児童館に対する援助・サービスの強化．
2. 日曜こども劇場及び展示プレゼントの充実．
3. 科学展示物・科学娯楽機の整備．
4. 無線・工作室等各室運営の充実．

東京農工大学工学部
附属繊維博物館長　**佐々木清文**

1. 附属植物園を昨年開設したが．時期が遅かった為，栽培品種が少なかった．本年は綿．亜麻，苧麻等の繊維作物および染料植物を成るべく多く栽培する．
2. 見学者が自分で動かして物を作る喜びを体験できる．ゴム紐等の製紐機，帯締めの組み台，リリアン編機を設置した処，好評だったので，本年は見学者が自由に動かすことができる機械類を増設する．

徳島県博物館長　**豊岡磊造**

本館が建設されて本年で17年目を迎えました．改築のこともいく度か議せられましたが実現せず，昨今の経済事情からすれば，ますます困難となってまいりました．年代を経ているだけに収集した資料も比較的豊富であります．昨年同様．これらの資料の保存と整理に努力したいと思っています．それとともに．テーマ展や講習会・講演会・移動教室などの教育活動に力を注ぐつもりでおります．

鳥取県立博物館長　**木代　彰**

(1) 開館4年目を迎え，地方の総合博物館として果すべき役割を再検討し．同時に特別展の開催方法，内容等について検討したい．

(2) 博物館活動振興方策の研究委嘱事業を通して，学校教育や社会教育との連けい．展示方法について広く意見を求め，入館者の追跡調査等を行う．

(3) 教育普及活動，資料収集を積極的に進め博物館に対する認識を高めたい．

内藤記念くすり資料館館長　**内藤豊次**

創立5周年を迎え，資料総数5千点を越え，学芸員も2名となりました．これを機会に「くすり博物館」と改称し，健康科学に貢献する博物館として，さらに発展させたいと思っています．

今春は「現代の性教育展」を改装し，家族計画を中心に新たな展示を行います．また約1万3千冊の蔵書の整理も終り，蔵書目録の刊行の準備も進めています．

福井市立郷土自然科学博物館長　**小林貞七**

20数年を経て，もう見飽きたと言われそうな常設展示である．今年こそは一歩でも半歩でも前進させたいと念願している．財政不如意の折から，結局は館員だけの努力と熱意で突進せねばと，決意を新たにしている．

公害だ自然破壊だと騒々しい．これら当面の問題にも

多くの著名な化石その他の標本類をこの機会に里帰りさせて，県民に見て貰おうという気持もあったわけである．

内容　これらの目的を充分に果たすために展覧会の内容は次の6つの部分に分けて構成した．

(1)　プロローグ〝美しい山口県〟まず最初に導入段階として，この展覧会が意図する所を呼びかけるためにマルチスクリーンにより美しくすばらしいふるさとの自然を紹介し，あわせてこの展覧会の目的をナレーションで語りかけた．

(2)　ふるさとの地史，永い地史の流れの中で，地上に生物が現われ，日本列島が誕生した古い時代から洪積世に至る各地質時代の山口県の姿を，その時代背景とともに化石，岩石を中心に解説した．

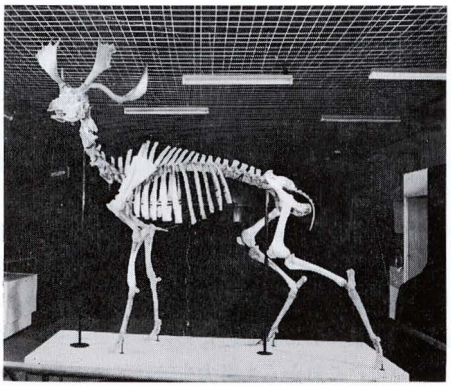
(3)　人類と自然環境　洪積世に現われた人類の祖先が，どのような自然環境の中で，どのように進化してきたかを，洪積世人類を中心に解説・展示した．

(4)　ふるさとの動物たち　山口県の現生の動物たちを紹介し，特殊生物については特に詳細に生態・分布等も解説した．

(5)　山口県の植物相のなりたち　現在のふるさとの植物相が，どのような地史的・地理的背景のもとに形成されてきたかを考察し，これからどのように変化してゆくかを説明した．

(6)　エピローグ〝美しい自然をいつまでも〟激しく変貌する自然の姿のいくつか〝はびこる帰化植物〟〝移り変わる昆虫相〟〝大気汚染の現状〟をとりあげ，今のままで進んだらどうなるか，今，我々は何をなさねばならないかを考えさせ，その責務を強くうったえて終局の章とした．

反省　以上のような内容のために，いきおい説教くさい地味な展示となって，観客を動員するだけの魅力に欠けることを懸念したのであるが，結局，かえってこの目的を強くうったえたために新聞・テレビ等をはじめとする各報道機関の強力な後押しが得られ，P.R.してくれた．



わが国ではじめて復元されたヤベオオツノシカ

例えばテレビ局は特別番組を組み，朝日・毎日・読売をはじめとする各新聞社はそれぞれ大きなスペースをさいて展覧会の内容を続きものとして連載したことは，この展覧会の強力な広報となった．

そのため，新聞の連載記事を全部切り抜いてテキストとして持参して展覧会を観覧する者が多かったことは，今までにないことであった．

また，本展の特色の一つとして，地元山口・広島の各大学が，あるいは地質の講義の一環として，あるいは一回の地質巡検に代えてこの特別展を見学してくれたことも挙げられよう．

ともあれ，地方の小都市での行事であるために，入場者が休日に殺到するというジレンマはいつものことながら，どんなに待たされても押されても，大人も子どもも解説パネルまでじっくり読んで，勉強しようという意欲がよくうかがわれたことは，館員にとってこれ以上に嬉しいことはなかった．

終わりに，本展の開催に当り，企画の段階から御指導御援助いただいた後援の国立科学博物館はじめ，貴重な資料を特別にお貸し下さった多くの館園に深く感謝する次第である．

昭和50年度全科協博物館事業研究会のお知らせ

本年度も，全科協博物館事業研究会を行う予定で，現在実施計画を進めております．今回は，展示の理論と実際（仮称）ということについて，研究してみたいと思います．期日は，3月の中旬を予定しています．

計画のきまり次第お知らせしますので，多数参加してくださるようお願いします．なお，各館園で展示の企画および実施等にあたって当面している問題点を整理しご用意しておいていただければ幸いです．

お詫び

心ならずも，原稿等の都合で，発行がおくれましたことをお詫びいたします．今後このようなことがないように努力しますので，みなさまのいっそうのご協力をお願いします．なお，無関心へのアプローチのまとめ（その2）と，全科協北から南からは，頁数の関係で次号にまわしましたので，ご了承ください．　（事務局）

会員館園の紹介

鳥羽水族館

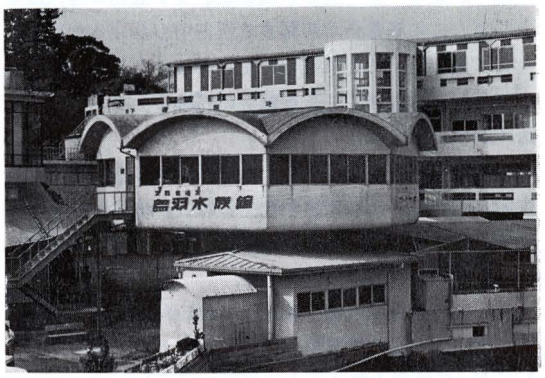
副館長　片岡照男

鳥羽水族館は昭和30年5月に「自然水族館」の形で，鳥羽湾にのぞむ一角にオープンして以来，施設の増設と資料収集の努力を積み重ねながら，昭和45年にほぼ現在の形態を整え，はやくも開館20周年を迎えるにいたりました．海洋観光都市といわれる鳥羽市は，伊勢志摩国立公園の海の表玄関にあたり，春，夏，秋のシーズンには数100万人もの観光客や修学旅行の生徒たちが集中する立地条件にあることから，当館もまた，いわゆる「観光地型」の水族館としての要素をもつものといえます．

現在の鳥羽水族館は，(1) 魚類を主体とした飼育展示施設の本館の他，(2) スナメリやアシカ類などの大形プールをもつ「マリン・スタジアム」，(3) 原色魚類はく製や甲殻類，世界の貝類などの生物標本を展示する「マリン・ギャラリー」と，日本産貝類を一堂に集めた「寺町コレクション・ホール」をもつ博物館的な施設の三つの建物を中心として，売店や食堂などのサービス・スペースを配した総合的な施設が整備され，常時300種以上約5,000点前後の飼育動物と，6,000種約12,000点にのぼる標本類を公開展示しています．

水族館は博物館としての社会教育施設の一つであり，当館では生きた海洋生物と標本類とのダブル・アレンヂメントによって，観客により深い理解と関心をもたせ，またリクレーションの場を提供しながら「知的好奇心」の充足をはかるべく配慮をしているものと自負しています．また，資料の収集と展示及び保存と研究が使命でもありますが，当館では館外活動にも重点をおき，1960年の伊豆式根島をはじめ，奄美大島（1963）や小笠原諸島（1968）などにおいて海洋生物調査を実施してきましたが，昨年には西カロリン諸島のヤップ島にも調査の足跡をしるし，多くの成果は展示や研究面と共にスタッフのトレーニングの上でも大きく反映させることができました．調査研究事業は三重県立博物館との共同で行われることが多く，一つの伝統として熊野灘沿岸の生物調査の他，現在も伊勢湾底生生物調査に引継がれています．

鳥羽水族館では，鳥羽湾をはじめ志摩の海や熊野灘の豊かな魚類及び無脊椎動物相をバックとしたローカル・カラーを打ち出すべく努力をしておりますが，最も誇りとする飼育動物は，「伊勢湾のミニ・鯨」ともいわれるスナメリの飼育に成功したことでしょう．現在では400トンプールで13頭（♀3，♂10）のスナメリがダイナミックな遊泳ぶりをみせています．9年6ケ月の長期飼育



によって，これまで不明であったスナメリの生態や形態，食性などに関する一連の研究レポートと基礎データが動物園水族館雑誌を通じて発表されています．

また，今年1月にオープンした「寺町コレクション・ホール」は，京都市の貝類蒐集家，寺町昭文氏が50余年にわたって採収集した日本産貝類7,000種を譲渡されたもので，そのうち和名の明らかなもの4,000種，約10,000点を選んで展示していますが，世界の貝類と共に当館の貝類標本の豊富さを物語っています．また，世界に13種といわれているオキナエビスガイ類のうち，「1万ドルの貝」として話題をよんだ史上4個体目のリユウグウオキナエビスやアダンソンオキナエビスなど7種類を展示していることも自慢の一つといえましょう．「マリン・ギャラリー」に並べられた100種をこえる甲殻類の乾燥標本も，当館の主要コレクションの一つですが，そのほとんどが職員の手作りの標本であることも特長としてあげられます．

水族館内には，小は50リッター程度の水槽から，400トンの大水槽まで80余の飼育展示槽をもち，4系統の循環沪過系統に分けて管理されていますが，観覧コースにはカリフォルニア・アシカやオタリア（南米アシカ）などの楽しいショーも組まれ，子供連れの家族などに好評を得ています．

三重国体の行われた50年10月には，天皇・皇后両陛下をお迎えする栄誉によくしましたが，水族館が単に美しい魚や珍奇な標本を見せるというだけでなく，楽しみながら海の生き物たちに親しむためのアプローチの役割を果せるように，これからも努力を続けてゆきたいものと思っています．